

10. グランドデザインの進捗状況

グランドデザインの4つの目標 進行管理報告書(平成27年度)	
<p>グランドデザインの4つの目標とは「豊中市立図書館の中長期計画 豊中市立図書館グランドデザイン」(平成26年3月策定、以後グランドデザイン)において、平成35(2023)年までに図書館のめざす姿を実現するために設定されたものです。</p> <p>図書館のめざす姿を実現するため、28のプランを優先順位の高いものからすすめることになっています。この優先順位の高いプランの実施状況を確認することで、グランドデザインの進捗状況の点検をすすめていきます。進行管理については以下のとおり行います。</p> <p>・0～4の目標のうち、複数のプランがあるものについては、図書館の使命および関連の事業計画や図書館を取り巻く現状などに照らし合わせ、優先順位を決定しています。なお決定にあたってはそれぞれのプランの重要度による判断ではなく、その年度ごとに状況を勘案し、直接サービスに関わる分館の施設長なども関わって、優先して取り組むべきものを選択しています。</p> <p>・28のプランを関連する4つの目標(1～4)と目標実現を支える取り組み(0)ごとに分類します。</p> <p>・28のプランの優先順位の高い取り組みを抽出し、事業ごとの取り組みや課題、次年度に向けての予定を達成状況とともに表しています。</p> <p>・優先順位の高い取り組みがどの程度達成できているか確認することにより、図書館のめざす姿の実現に向けての進行管理とします。</p>	
<p>達成度 ○：十分達成できた ○：おおむね達成できた △：一部達成 ー：未達成</p>	
<p>1. 学びによる市民と地域の自立を支えます。 該当プラン⑳・㉑・㉒・㉓・㉔</p>	
優先的な取組プランと事例	達成状況 課題、平成28年度に向けての取り組み
<p>㉔図書館サポーターへの参加機会の提供 【事例】 26年度に続き、庄内図書館等で成人利用者向けの「大人のための図書館のお仕事体験ツアー」を開催し、利用者が図書館の仕事の一部を体験できる機会をもちました。また、図書館協議会ではサポーター制度について検討し、3月に「図書館サポーターについての意見書」としてまとめられました。</p>	<p>○</p> <p>【課題】 ○意見書をふまえた、市民それぞれの得意分野で活躍できる制度設計㉔</p> <p>【平成28年度に向けての取り組み】 ・ 図書館協議会の意見書を受けて、方法を研究・調査し、28年度中にサポーター制度を導入します。㉔</p>
<p>2. 市民の利便性を向上させあらゆる情報を提供します。 該当プラン⑰・⑱・㉒・㉓・㉔</p>	
優先的な取組プランと事例	達成状況 課題、平成28年度に向けての取り組み
<p>⑰セルフ貸出、返却、予約受取 【事例】 セルフ貸出機を庄内・東豊中・服部・高川・蛍池に導入するとともに、千里では資料点検期間内でもセルフ予約棚を開放することで、予約の受け取りを可能にしました。</p>	<p>○</p> <p>【課題】 ○セルフ貸出機の導入館が8館になったことによるサービスの効果検証⑰</p> <p>○千里図書館の開館日拡充に向けての必要な条件整備、バックアップ体制の構築のための全館的な事業の見直しやさらなる効率化⑱</p> <p>○セルフ予約棚、セルフ返却機、セルフ貸出機の効果検証⑳</p>
<p>⑱開館日数の拡充 【事例】 資料点検期間については、セルフ貸出機設置の工事を実施した図書館以外は、概ね1日から4日の期間短縮を行いました。 千里図書館では、5日間の資料点検中にセルフ予約棚を開放することで、部分的な開館につなげました。</p>	<p>△</p> <p>【平成28年度に向けての取り組み】 ・ 8館にセルフ貸出機が導入されたことによる効果検証をすすめます。また引き続き利用者に丁寧な案内を行い、セルフ貸出機等の利用率の向上をめざします。⑰</p>
<p>㉒ICTの活用 【事例】 セルフ貸出機を庄内・東豊中・服部・高川・蛍池に導入しました。セルフ予約棚を導入している千里では資料点検期間内でも予約の受け取りが可能となりました。</p>	<p>○</p> <p>・ プラン⑤(職員の役割分担)で作成した職員の役割分担表をもとに事業見直しを行い、効率化をはかります。 ・ 庄内幸町を除く全館にセルフ機の設置が完了したことを機に、全館的な効果検証を行うとともに、千里図書館における月曜開館にむけた具体的なプランを検討します。⑱</p> <p>・ マルチメディアデジター図書の貸出を4月より開始します。 ・ 国会図書館デジタル化送信サービスに対応し、市民に国会図書館のデジタルデータを提供できるよう機器の設置を行います。㉒</p>

3. 地域課題に対応した図書館サービスを提供します。該当プラン④・⑦・⑧・⑭・⑯・⑳

優先的な取組プランと事例	達成状況	課題、平成28年度に向けての取り組み
⑦館ごとの目標設定 【事例】 高川図書館が（仮称）南部コラボセンターのサテライトの役割を担う視点で詳細設計を行いました。	○	【課題】 ○図書館全域サービスの必要性から見た長期・短期の目標の設定⑦ 【平成28年度に向けての取り組み】 建物の老朽化という視点からも図書館施設のあり方や配置を検討し、各館の目標を設定します。⑦

4. 学校図書館の支援を通じて子どもたちの学びの基礎作りを支えます。該当プラン⑪

優先的な取組プランと事例	達成状況	課題、平成28年度に向けての取り組み
⑪学校図書館を支援する人材の配置 【事例】 学校図書館を活用した授業例「とよなかスタンダード」（試作版）を作成し各学校に配布しました。教職員向けの校内研修メニューにも「とよなかスタンダード」を組み込み、学校図書館を活用した授業計画を作成する研修を行いました（平成27年度7校）。授業における学校図書館活用の現状を把握し、さらなる活用を進めるため、各学校図書館での事例を集約するフォーマットを作成、各学校での記入を開始しました。 学校での読書活動や調べ学習等の取組みを紹介する「ブックプラネット通信」を発行し、教育委員会内や学校に配布し、Webページに掲載しました（平成27年度、2回発行）。	○	【課題】 ○教育センター、学校教育課と連携した学校図書館活用教育に関する体系的な研修の検討 ○学校図書館を支援する人材として、学校図書館の実務経験がある担当者の配置⑪ 【平成28年度に向けての取り組み】 ・学校図書館活用研修と知的探究合戦「めざせ！図書館の達人」を連続して実施し、体系的な研修として位置づけます。 ・「とよなかスタンダード」の内容を充実させ、研修等を通じて教職員への周知を進めます。⑪

0. 1から4の目標実現を支えます。

該当プラン①・②・③・⑤・⑥・⑧・⑨・⑩・⑫・⑬・⑮・⑰・㉒・㉓

優先的な取組プランと事例	達成状況	課題、平成28年度に向けての取り組み
①最適な実施手法の確立 【事例】 ICTを活用したセルフ貸出機の導入にともなう業務の見直しを実施しました。高川図書館については運営の省力化および多機能化をめざし、レイアウトの変更を検討しました。	○	【課題】 ○コスト感覚をもちながら地域特性を把握し、ニーズにあった図書館づくりの推進 ○図書館全体のめざす目標を職員間で共有① ○特定事業としての見直しの中での分担当の活用。個々の現状の仕事の確認および組織における職域ごとの業務の洗い出し、他の職域の職員に向けての業務の切り出し等 ○連絡会に参加する施設長・副館長の立場の明確化⑤
⑤職員の役割分担 【事例】 多様な雇用形態の職員が自身の業務を見直し、今後の円滑な図書館運営につなげるために雇用形態ごとの役割分担を一覧表にまとめました。また、会議の効率化・迅速化をはかるために、貸出室・こども室・参考室の各担当者連絡会に議論内容をつなぐ役割として、施設長・副館長のなかから1名ずつ配置しました。	◎	○（仮称）南部コラボセンター基本構想をふまえた、高川図書館の機能変更 ○多機能化によってできるスペースの活用方法の検討 ○セルフ貸出機等、ICTを活用したサービスによる業務の効率化⑫ ○セルフ貸出機の導入館が8館になったことによるサービスの効果検証⑰
⑫施設配置の最適化 【事例】 「特定事業の見直し」の一環として、分館のあり方を検討し、高川図書館については多機能化をめざしレイアウト変更を検討しました。	○	○セルフ貸出機等導入の効果をふまえたフロアワークの充実⑳

<p>①セルフ貸出、返却、予約受取 【事例】 セルフ貸出機を庄内・東豊中・服部・高川・蛭池に導入するとともに、千里では資料点検期間内もセルフ予約棚を開放することで、予約の受け取りを可能にしました。</p>	<p>【平成28年度に向けての取り組み】 ・高川図書館のレイアウト変更を行い、書架を縮小し、学習支援など、地域の課題解決に寄与するスペースを確保します。またそのスペースを活用できるNPOや団体など担い手の検討を行います。①</p>
<p>②きめ細やかな接客 【事例】 気軽に声をかけ易いよう「お探しのものは見つかりましたか」といったワッペンを装着し、フロアワークの実践を続けています。 読書振興課・岡町図書館では、職員研修「接客振り返り研修」(事前研修と実地研修)として、窓口対応や表示等について外部講師からアドバイスを受け、サービスマナーの向上に努めました。(45人参加)また、平成28年4月障害者差別解消法の施行を前に、障害のある方に対するより良い窓口対応等の要領「豊中市の職員対応要領」について、研修を実施しました。(118人参加) セルフ貸出機等の導入により業務の効率化を図り、フロアワークの充実を目指しました。</p>	<p>役割分担表を職員間で共有し、それを元にセルフ貸出機等の導入後の効果を検証し、各館の状況に応じた職員の役割を検討します。 各担当者の連絡会内の進行や調整などの主体は担当職員であること、施設長・副館長の役割はオブザーバー的な立場であることを明確にします。⑤</p> <p>多機能化を目的とした高川図書館のレイアウト変更を行うとともに、スペースの活用が可能な担い手を検討します。また高川図書館を含む分館のあり方について、具体的なプランを検討します。⑫</p> <p>8館でセルフ貸出機が導入されたことによる効果検証をすすめます。また引き続き利用者に丁寧な案内を行い、セルフ貸出機等の利用率の向上をめざします。⑰</p> <p>セルフ貸出機が庄内幸町図書館をのぞく全図書館に導入されたことによる効果を確認し、フロアワークの見直しを行います。また研修も引き続き実施していきます。⑳</p>

11. とよなかブックプラネット事業

とよなかブックプラネット事業では、学校・公共図書館間の人・物流・情報の連携により、学校図書館の「読書センター・学習情報センター・教員支援センター」機能の向上と、児童生徒の自ら学ぶ力の育成をめざしてきた。平成25年の「とよなか読書活動支援システム」稼働後も、学校図書館活用に向けた取り組みをすすめている。

27年度は、学校図書館の授業活用をはかるために作成した「とよなかスタンダード*1」を用いての研修や、アニメーション*2などの読書活動についての校内研修を、11校でおこなった。ブックプラネット事業の啓発事業として、7月には児童・生徒が市立図書館での調べ学習を体験する「知的探究合戦『めざせ！図書館の達人』」を実施した。参加希望も増え、学校と連携した取り組みとして定着してきている。1月には絵本作家鈴木のりたけさんを招いて子ども読書活動フォーラムを開催した。

今後は学校図書館教育を推進するため、教育センター・学校教育課とさらに連携を深め、子どもたちの読書活動や探求学習の拠点となる学校図書館を支援し、豊かな言語力と情報活用能力の育成に資することをめざしていく。

*1 とよなかスタンダード＝図書館教育（情報活用教育）を通して子どもにつけたい力を示した指導体系表と学校図書館を活用した授業例（年間計画）。

*2 アニメーション＝子どもたちに読書の楽しさを伝える読書指導メソッド。